

Monthly Report

 SENDAI UNIV.

PUBLIC RELATIONS

Vol.188 / 2021 .DEC

(月1回発行)

本学がゲームスポンサーとして仙台89ERSのホームゲームを鼓舞



試合後、参加した本学園関係者で記念写真

プロバスケットボールリーグ(B2)仙台89ERSの第10節熊本ヴォルターズ戦が 12月4日(土)に仙台市太白区のゼビオアリーナ仙台で行われ、本学は「ゲームスポンサー」として協賛しました。

ハーフタイムでは仙台大学「DAN DAN DANCE & SPORTS 18th※」の実行委員会による中国武術やブレイクダンスなどのパフォーマンスを披露し、会場を盛り上げました。

また、会場内に本学園のブースを設置。NBAで活躍している八村塁選手(仙台大学附属明成高校出身)の等身大パネルやNBA体験ゲームコーナーなどを企画し、ブースターに本学園をより知ってもらう機会となりました。

試合は仙台89ERSが勝利。MVP賞のプレゼンターを、本学が招へいしている白石市・柴田町東京2020オリ・パラホストタウン親善大使のセベツ・アリーナさんが務めました。

仙台89ERSと本学は2018年よりアカデミックパートナーシップ協定を結んでいます。

※「DAN DAN DANCE & SPORTS 18th」は本学がスポーツを通じた地域貢献の一環として毎年開催しているイベントです。18回目を迎える今年度は、1月29日(土)に実施し、本学YouTube公式チャンネルで生配信をおこないます。是非ご覧ください。



〈目次〉

・本学がゲームスポンサーとして仙台89ERSのホームゲームを鼓舞	1
・ノルディックウォーキングで健康増進！ ・丸森町ウォークラリー大会に今年も参加	2
・バレーボール全日本インカレに同行して栄養面サポート ～スポーツ栄養研究会「男子バレーボール部サポートグループ」～ ・栄養士校外実習の報告会が行われました	3
・男子バレーボール部/天皇杯ファイナルラウンド、Vリーグ所属チーム相手に奮闘 ・軟式野球部/軟式野球日本代表に本学の持館理登、2年連続選出！ ・バドミントン部/東北新人学生バドミントン選手権結果	4
・男子サッカー部/伊啓啓太郎と中村魁哉がJリーグチームへに内定 ・「2021年クリスマス会」を開催	5
・芝草通信 NO. 32	6
	7
・「高校スポーツの安全を守る」Vol.44	7

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報課までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報課までご一報ください。

仙台大学 広報課

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

ノルディックウォーキングで健康増進！

健康福祉学科では、健康運動の現場で活躍中の講師（主に、同学科卒業生）から運動指導の実際について学んでいます。12月2日（木）は「ノルディックウォーキング（NW）」を、星勝久講師（同学科1期生、国際NWナショナルトレーナー）からポールの使い方、ポールを使った準備運動、基本動作のご指導いただき、学外にも出掛け、実践を行いました。

学生からは、「ポールを持つことで、腕が大きく振られ大腿になり、前進運動となるのがわかった」、「普段歩くよりも運動になるが、足は楽な感じもあり、楽しかった」、「誰でも簡単にできるスポーツだと思った」、「久しぶりに“歩いた”という実感があり、気持ち良かった」、「新鮮な感覚で遠くまで歩いて、歩くトレーニングだと思った」などの感想がありました。

講師からも「NWは全身の約9割の筋肉を動員でき、通常歩行よりもエネルギー消費が多く、より運動効果が得やすいウォーキング法です。必ず地面にポールが着いているため、歩行が不安定な高齢者などへの運動法としても取り組まれています。コミュニティの活性化や、スポーツツーリズムの視点からも注目されています」と解説いただきました。

寒くなり運動不足になりがちでしたが、運動・スポーツの良さを改めて確認する演習となりました。

<健康福祉学科>



丸森町ウォークラリー大会に今年も参加

健康福祉学科では、「健康づくり運動演習」の一環として、11月14日（日）に開催された第26回丸森町ウォークラリー大会に参加しました。この取り組みは、本学が同大会の運営協力をしているつながりにより、おおよそ10年くらい続いています。今回は、健康福祉学科1年生33名、運営スタッフとして3-4年生7名、引率教職員5名が参加しました。新型コロナウイルス感染症の影響により、久しぶりの大人数で学外現場実習となりました。

この大会では、チェックポイントごとのしかけを通して、丸森の魅力を感じて楽しめます。具体的には、コース図に従い、途中設定されたチェックポイントと観察ゾーンなどで出題される問題を解決しながら、ゴール後の時間得点と課題得点の合計で順位を競います。

コロナ感染症によって人とのつながりが減少するなかで、貴重な人間交流の機会となりました。笑顔または笑顔をつくる表情筋を動かすことで、うつ病の予防になるとの研究事例もあるため、学生たちは、笑顔で一日過ごすことを課題としました。

参加後の感想では、多くの学生が「気晴らしになった」「友達と話ができて楽しかった」など気分転換になったと答えました。また、「地域の方から優しく声をかけられ嬉しかった」「こうしたイベントの意義を改めて感じた」など、イベントの効果を実感する学びもできたようです。

貴重な機会を提供いただきました丸森町の皆様には、この場を借りて心より感謝いたします。ありがとうございました。

<健康福祉学科>



バレーボール全日本インカレに同行して栄養面サポート ～スポーツ栄養研究会「男子バレーボール部サポートグループ」～

スポーツ栄養研究会「男子バレーボール部サポートグループ」は、東京都で11月29日（月）から開催されたバレーボールの全日本インカレ（第74回秩父宮賜杯全日本バレーボール大学選手権大会）に5名が同行して栄養サポートを実践しました。

本学の初戦となった30日の日本大学（関東リーグ1部8位）との対戦前には、エネルギー補給を目的とした鮭おにぎり（393kcal）とゼリードリンク（118kcal）を提供。

鮭おにぎりには、調理時間の短縮を目的にアルファー化米を使用し、ゼリードリンクは選手が飽きずに補食できるように、リンゴとブドウの2種類の味を提供する工夫をしました。

試合後には筋肉の早期修復を目的として、白玉団子（156kcal、たんぱく質5.7g）とチョコレートミルク（225kcal、たんぱく質12.8g）を提供。チョコレートミルクは、会場で冷やす場所が限られていたために、初めに大きなボトルで急速に冷やした後、選手分のペットボトル容器に移す工夫をしました。

男子バレーボール部は、善戦するも、初戦で惜敗しましたが、男子バレーボール部サポートグループでは今後も選手のことを第一に考え、選手がコート上でベストパフォーマンスが発揮できるように、栄養面でサポートしていきます。



試合後の補食提供の様子



アルファー化米を使用した鮭おにぎり



試合後に提供したチョコレートミルク

栄養士校外実習の報告会が行われました

運動栄養学科では、定められた授業科目を修得することで、栄養士免許を取得することができます。その集大成が、4年次に小・中学校や病院、保育所等の施設で行う栄養士校外実習です。この実習は給食施設で5日間の実践を積むもので、給食の運営に必要な献立作成、調理作業、配膳等を現場で学ぶものです。

12月9日の「給食運営実習Ⅱ（校外実習）」の授業内において栄養士校外実習の報告会が行われ、各々が実習を通して学んだことや気づき、反省点、今後どのように生かすかなどが報告されました。

今回の報告会はコロナ禍ということでオンラインでの開催となりましたが、学生は実習前に作成した教材やイラストなど趣向を凝らしたスライドを作成し、報告を行っていました。

学生たちの報告から、実習を通して自信を深めた様子が感じ取ることができました。



男子バレーボール部／天皇杯ファイナルラウンド、Vリーグ所属チーム相手に奮闘

本学男子バレーボール部は12月10日（金）から群馬県高崎アリーナで行われた、令和3年度天皇杯・皇后杯全日本選手権大会ファイナルラウンドに東北ブロック代表で出場し、Vリーグに所属するチーム相手に果敢に挑みました。

1回戦はV2リーグ所属の大同特殊鋼レッドスターに2-1のフルセットの末、勝利。続く2回戦はV1リーグに所属し、日本代表や海外の代表選手がスタメンに並ぶパナソニックパンサーズと対戦し0-3で敗れました。



結果は以下の通り

1回戦 仙台大学 2 (25-22、18-25、25-18) 1 大同特殊鋼レッドスター (V2)
2回戦 仙台大学 0 (15-25、13-25、22-25) 3 パナソニックパンサーズ (V1)

今大会で4年生は引退となりますが、この舞台に戻ってこれるよう来シーズンもチーム一丸となって努力してまいります。

また今年度もコロナ禍で選手のプレーを実際に見る機会がありませんでしたが、配信やSNSを通じて本学男子バレーボール部を応援していただきありがとうございました。

<男子バレーボール部>

軟式野球部／軟式野球日本代表に本学の持館理登、2年連続選出！

大学軟式野球の日本代表選手に本学から持館理登(もつたて・りと、体育4年)が選出されました。昨年に続き、2年連続の選出です。

全日本大学軟式野球連盟が選んだ日本代表選手は学生コーチとマネージャーを含めて総勢25名。東北地区からは持館のほか東北学院大学から1名、東北福祉大学から2名が選出されました。

持館は福島県相馬高校出身の外野手。174cm、72kgの右投げ左打ち。巧みなバットコントロールを活かした攻撃が持ち味です。東北地区大学軟式野球選抜チームにも3年連続で選出された実績があり、今回も「自分の良さを最大限に発揮し、チームに貢献できるように努力したい」と意気込んでいます。

日本代表チームは、当初台湾での国際親善大会に出場する予定でしたが、コロナの影響で会場を宮崎県都城市に移して12月15日から19日まで開催する交流事業に参加しました。



前回の全日本代表時の持館理登

バドミントン部／東北新人学生バドミントン選手権結果

バドミントン部は12月6日（月）から仙台市青葉体育館で行われた東北新人学生バドミントン選手権に出場し、女子ダブルスにおいて三浦咲乃/吉田亜由美（ともに体育2年）が準優勝、Bブロック男子シングルスにおいて亀山陽生（健康福祉1年）が優勝しました。

この大会は1・2年生が対象となっていますが、大学から競技を始めた学生や競技経験2年未満の学生のためにBブロックというカテゴリーも開催されています。

上位大会に繋がるものではなく、現状の力を試す要素が大きい大会となっており、各種目において決勝進出を出していくことを目標にしていかなければなりません。東北学生のレベルがここ数年で飛躍的に上がって来ているため、この流れに取り残されることなく、強化に邁進していきます。



女子ダブルス準優勝の三浦咲乃/吉田亜由美（ともに体育2年）

結果は以下の通り

<団体戦>

男子3位、女子準優勝

<個人戦>

男子シングルス	8強	上松和暉（体育2年）
男子シングルスB	優勝	亀山陽生（健福1年）
女子シングルス	8強	吉田亜由美（体育2年）
女子ダブルス	準優勝	三浦咲乃/吉田亜由美（体育2年）
	8強	阿部理子/中村彩乃（子ども運動教育1年/運動栄養1年）

<バドミントン部>

男子サッカー部／伊従啓太郎と中村魁哉がJリーグチームへに内定

男子サッカー部の伊従啓太郎（体育4年）がカマタマーレ讃岐（J3）に加入内定し、また学生スタッフとして同部を陰から支え続けた総主務の中村魁哉（体育4年）が、来季からJ3に昇格するいわきFCのアカデミーフロントスタッフに就職内定しました。

これで男子サッカー部は来季のJリーグに選手4名、チームスタッフ1名を輩出しており、これは創部以来の人数となります。



伊従啓太郎（いより けいたろう）

■ポジション：DF

■出身：神奈川県川崎市（県立住吉高等学校出）

■特長：ヘディングと短長精度の高いフィード

■チーム歴：

FC中原→川崎フロンターレU-10→川崎フロンターレU-12→川崎フロンターレU-15→川崎フロンターレU-18→仙台大学



中村魁哉（なかむら かいや）

■総主務

■出身：福島県いわき市（湯本高等学校出）

「2021年クリスマス会」を開催

12月17日（金）、学生支援センター主催によるクリスマス会をおこないました。

この会は、学内の国際交流を深めることを目的に行っており、留学生11名、教職員18名、外部ボランティア2名の合計31名が参加しました。

参加者全員からの自己紹介と、自分自身の今年の漢字一文字を決めてもらい発表しました。また、ビンゴ大会とじゃんけん大会を行い大いに盛り上がりを見せました。

普段話す機会の少ない留学生と話すことができ、学内の国際交流を深めあう充実した活動になりました。

今回のイベントが留学生にとって心に残るものになってくれたと思います。

なお、発表した漢字一文字については学生支援センター内に掲示していますので是非ご覧ください。



クリスマス会の様子



学生支援センターに掲示している漢字一文字

芝草通信 NO. 32

担当：体育施設管理コンサルタント 小島 文雄

施設管理課 労務職員 八巻 良宏

噴水回り高麗芝生（暖地型芝生）に混入した白クローバー（white clover）駆除の状況NO.2

前回報告した駆除の状況として、薬剤散布（11/16実施）の方法と1週間後の様子をお伝えしました。1カ月経って観察すると茎葉処理除草剤が芝草の葉や茎から浸透して根元まで到達して全体がこげ茶色となり茎の太さも半分くらいに細くなり、すっかり除草剤の効果が効いて枯死している部分がありました。しかしその部分が散布した区域の40%くらいで残り60%くらいの部分には効果が少なく依然として緑色の葉が残っていて、葉先が縮小してしなやかになっているが枯死した様子には見られない部分がありました。

効果のあった茎葉を観察すると枯死した茎葉は触るとぼろぼろと崩れたり引き抜くと簡単に抜けてきたりします。散布した茎葉処理除草剤の効果が良く効いて、根元まで除草剤が到達していると考えられます。したがって除草剤の濃度は適正であったと判断しました。散布量が少なく、また密集している茎葉には薬剤が直接接触していなかった部分が有ったと考えられます。そこで、対策として濃度は同じにして散布量を2倍にして再度散布（12/15実施）しました。今後1か月くらいで効果がみられると思いますので皆様も観察してください。

今回利用した茎葉処理剤MCP液剤は希釈倍率が100倍から400倍と幅がある事と散布時期の気温や土壌の乾燥状態などにより、効果は様々です。皆様の家庭でも散布の状況を記録していろいろな条件に挑戦してみれば適正な条件が見つかると思います。今の時期は暖地型芝生が冬眠中で茶褐色をしており、寒地型雑草は生育中で緑色をしており、はっきりと区別ができますので、散布しやすいと思います。

今回は完全に白クローバー（white clover）を駆逐した状況をお伝えしたいと思います。



写真 1. 遠景、3体前

茎葉除草剤MCP液剤の効果が100%に達してなく緑色が目立つ。（散布1か月後）



写真 2. 近景

40%くらいの部分に茶褐色になって効果が効いてる事が見られる。（散布1か月後）



写真 3. 接写

全体がこげ茶色となり葉先が縮小して茎の太さも半分くらいに細くなり、効果が良く効いてる部分と葉先が縮小してしなやかになっているが、緑色の茎葉が残っていて、効果が効いてない部分がある。(散布1か月後)

(12月26日 記)

川平キャンパスAT・S&Cレポート

「高校スポーツの安全を守る」Vol. 44

助手 今野 桜

12月に入ってから一気に寒さが増し、ここ川平地区でも今年度初の積雪がありました。川平ATRがある場所は特に風が強く吹くので、寒さが一層身に沁みます。そんな冬の寒い日々ですが、高校生は変わらず毎日練習に励んでいます。

さて、スポーツによる怪我の相談のために川平ATRに来る生徒の数は、例年の相談件数を比較すると10月からの2、3ヶ月に増える傾向があります。

それぞれの部活動で9～10月頃に大会があり、それが終わると大会までは痛みを我慢しながらプレーしていた人や、試合中に負傷してしまった人などの相談が増えます。接触プレーで防ぎきれない怪我也たくさんありますが、疲労を溜め込んだり、体の一部へのストレスが蓄積したりして起こる慢性障害によって練習を離脱する生徒も多くなっているのが現状です。

11～12月にかけて特定指定研究部活動を対象に行われた「スポーツ傷害予防講習会」では、そういった慢性障害を予防することと、この時期に特に気をつけなければならない風邪・感染症についての話をしました。高校生活は3年間と限られていて、夏から秋にかけて多くの大会が行われます。高校生にとって冬の間にとりだけいいコンディションを整え、体づくりができるかが次の年の成績にも大きく関わってきます。運動・栄養・休養のバランスを整え、体調を崩しやすい時期だからこそいつも以上に自分の身体を知り、大切にする必要があります。2022年も少しでも怪我で悩む生徒が減り、笑顔でスポーツを楽しむ姿が見られるように、日々の傷害予防に取り組んでいきたいと思ひます。